

「ルワンダの復興支援プロジェクト 紛争やエイズなどにより親を失った孤児への援助」

樋口貞子 菊池健介 渡部真珠子 石橋可苗 石黒直子

私たちは、1994年から起こったルワンダ内戦での難民などの戦災孤児、またはエイズで親を失ったエイズ孤児への援助プロジェクトを提案する。生活面での孤児院建設、医療面での診療所の建設と医療提供、精神面での心のケアの三つの柱を3000万円の資金でそれをサポートする。以下にその詳細を示す。

孤児院建設はプロジェクトの第一段階である。孤児院は100人を収容できるものとし、家具、食器などすべて含めその建設費用は600万円である。孤児院では衣食住はもちろんのこと、教育、職業訓練、など社会にできるまでの包括的なケアを行う。支援物資として米10t、キャンディー約100kg、粉ミルク、ベビーパウダー、石けん、洗剤、ノート、文具、辞書、書籍、食用油、衣服など400万円相当の援助を行う。運営方法についてであるが、職員はすべてボランティアとし、日本からそして現地の人で運営される。人件費として200万円用意する。運営資金はインターネットなどでの宣伝による募金と里親からの資金提供である。里親からの資金提供とは、現地の人はもちろん、インターネットなどで里親を募集し、資金を月々提供してもらう。里親は、子供たちとの交流などはもちろん、社会にできるまでの協力を一緒に行う。

次に診療所建設と医療提供である。子どもを救援するという目的において場所を提供するだけでは十分とは言えない。統計によると、発展途上国の5歳未満の子どもの病気や感染症による死亡率は非常に高い。そのような子どもたちを救うために医療面から孤児院と併設した診療所の建設を計画する。建設における予算の概算は以下のとおりである。まず、規模においては日本でいう個人レベルのものを想定し、一階に診療所をおき二階を医師や看護婦の住居にできるものとする建築費用としては土地込みで400万円とする。そしてその他の諸設備に600万円とする。(内訳として基礎医療用具に200万円、可動式小型レントゲン400万円。)さらに100万円をワクチンや医療品や経口補水塩などの薬品代にあてる。栄養失調や不衛生な水による下痢の脱水症状で死亡する幼児が非常に多い。また、ワクチン不足も深刻な問題であるが、これらは小額の援助で防ぐことが可能である。ユニセフの資料によると、3,000円では25kgの高蛋白栄養食、6,000円では700人の子どもに下痢による脱水症状を治す経口補水療法(ORT)を施すことができ、10,000円では650人の子供にポリオの予防接種を施すことができるという。また、医薬品の運搬や病人の搬送に100万円を新品もしくは中古のワゴン車の購入に当てる。そして100万円を運送費その他諸費用に充当する。以上、で小規模な診療所を開設し孤児ならびに地域住民の利用を目指す。

最後に心のケアである。心のケアはこのプロジェクトの最終段階であり、子供たちに対する最も重要な取り組みである。ルワンダ難民の多くは現在のコンゴにあるゴマ難民キャンプで生活していましたが、現在はそのほとんどがルワンダに帰還した。孤児院でのカウンセリングと並行して、私たちはこの帰還した難民のための精神ケアを、カウンセラーや

そのカウンターパートが歩いて家々を回って行くことを提案する。難民の子供の中には、幼い頃に親を亡くしたり暴力を受けた、または暴力を目撃したことによってトラウマを抱えたり、心に傷を負った子供たちが沢山いる。また遊び場や遊び道具が不足しているため子供たちが毎日の暮らして溜まったストレスを発散させる為の機会が充分にない。そこでこの状況を改善させるためのケアとして以下のことを計画する。

まずインターネットのホームページによりカウンセラーを募集し、派遣する。そして子供たちとの会話や対話を通して心のケアに務める。カウンセラーは専門的な知識が必要なので海外からの心理カウンセラーを募る。カウンセラーは5人とし、派遣費は200万円とする。この内訳は、渡航費が一人当たり16万(5人×16万=80万)、人件費として一人一年24万=2880万ドル(5人×24万=120万)である。この金額は一人当たりの一年のGNPが230ドルであるルワンダでは、大変多額な金額である。さらに、カウンセラーのカウンターパートとして現地の人を雇う。カウンセラーのもとで働く人は、子供たちの心を開放する機会を提供する。具体的には歌を歌う機会や絵を書く機会を提供する。その活動の企画、運営は現地のカウンターパートに任せ、カウンターパートの数は子供10人あたり1人と考える。人件費はルワンダにおいて一人当たりの平均GNPが230ドルということ considering、一年間に250ドル×10~12人と考え2500ドル(日本円で約30万)とする。また遊び道具としては日本のNGO団体で世界中にサッカーボールを提供している、「ピースボール」に援助の対象にルワンダを加えてもらえるように依頼する。私たちの予算である400万の残りの170万で、ボール以外に精神ケアに用いる遊び道具やお絵かきをするときのノートや鉛筆、教室の黒板や机などを購入します。サッカーをしたりお絵かきをするのは、孤児院に子供たちを集めて行おうと考えている。この支援方法で一番大切なのは、カウンセラーと現地スタッフ・カウンターパートの関係構築である。ここがスムーズに行くことが、この支援の成功の鍵である。

以上が私たちが提案するプロジェクトの全体である。このプロジェクトを成功させるためには私たちの固い意志が必要である。たくさんの人からの援助によって運営されるため、この活動を世界に広めること、そのための取り組みをさらに行っていききたい。最終的には、孤児をなくせるよう活動していきたい。